

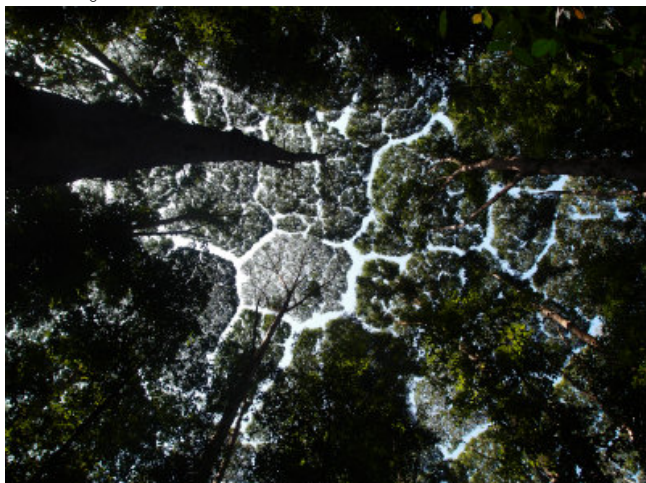
SGHマレーシア熱帯林調査実施報告

環境保護に関する課題や世界規模の課題の研究のための調査を、マレーシアで実施してきました。これはSGH(スーパーグローバルハイスクール) 事業で、「グローバルスタディーズ」を学習している生徒の代表が、4月から始まる「グローバルスタディーズⅡ」の課題研究のために行った調査です。

フリム森林研究所

FRIM(Forest Research Institute Malaysia)は、熱帯林の先端研究を行う拠点として重要であり、施設内の熱帯林はスズ鉱山跡地に人工的に植林されたことを事前に学習した上で観察・調査を行いました。

ネイチャーガイドの英語での解説を聞きながら、熱帯林に入っていくと特有の植生や珍しい動植物に出会うことができました。とりわけ「Crown Shyness」という現象で、熱帯林が健全に成長すると、木々の葉がお互いに太陽光線を譲り合い、モザイク模様のような樹形を形成する。これはとても興味深く、また美しい光景でした。



写真

フリムで観察した Crown Shyness
(葉がモザイク模様に見える)

生徒は熱帯林の魅力と、それを維持していく大切さを学び、今後の研究への意欲を深めることができた。今後の研究テーマについてフリムの研究員に相談にのってもらったことへの承諾を得ることができたのも収穫であった。

熱帯林調査とUPM (University Putra Malaysia)

マレーシア農業大学は、現在UPMと名称を変更したとのことである。ESD(持続可能な開発のための教育)の研究で著名な教授を訪ね、ゼミを1コマ(2時間)体験することができました。内容が「地球温暖化が植物に与える影響」だったため既習の内容で、早口の英語にもついていくことができました。



写真

ゼミで自己紹介をしました。

その他以下のような場所を訪問して調査を行いました。

・果樹園、ゴム園

マンゴー、スターフルーツ、天然ゴムを栽培している農園を見学しました。果実にはすべて保護袋がかぶせてあり、日本の農家と同様に衛生的で質の高い商品を生産している様子が観察できました。



・農家訪問（唐辛子、稲作）

小規模農家を訪問して実態を調査しました。訪問時に天候が悪く（スコール）車で農家の方に農地を案内してもらい、唐辛子の栽培と現在は休耕中の稲作について解説をしてもらいました。

